

2001 年度

びわ湖に期待

びわ湖に賭ける 有力選手紹介

▶▶4

「ぼく自身が自分に期待している」。これまでで最もいい状態で迎える3回目のマラソン。河野匡監督も「犬伏の時と同等に評価出来る練習は積んできた」と胸を張る。

日本選手初の2時間6分台をマークした先輩・犬伏孝行のトラック記録はすべて追い抜いて来た。実業団の7年間、故障などで練習スケジュールを変えたのは、わずか2週間程度という。「本当に練習をきっちり積み重ね

てきた選手。出来すぎから抑えてやらないといけないくらい」と

河野監督。今回も1月は、大好きなロードで結果を出しながら1200キロを走っている。陸上に興味をいだいたのは、小学4年生の時。福岡国際で中山竹通(ダイエー)が独走優

勝したのを見て、感動した。「最初から行くレースが理想。最初から最後までテレビを独占してみたい」。スピードに自信があるだけに、前半から速いペースになるのを期待する。

力蓄え3度目の正直



3度目のマラソンにかける岩佐

岩佐敏弘(25)＝大塚製薬

初マラソンの昨年2月の別大では「手堅く走りたい」と思いすぎ、優勝した西田隆維(エ

◇岩佐敏弘 徳島・生光学園高時代は無名だったが、95年、大塚製薬に入社して力をつけた。初マラソンの昨年の別大は2時間12分35秒で5位。

スピー食品)らのスパートを見送ってしまった。同9月のベルリンでは、両足にマメができた。2回とも力を生かせなかった。

「同世代の選手が2回目、3回目でもいい結果を出している。自分も『次は』と思っている」。日本最高記録保持者の藤田敦史(富士通)や昨夏の世界選手権5位の油谷繁(中国電力)と同じ年。「今度は何もしないまま落ちて行くレースはしたくない。どこかで自分から仕掛けたい」。2時間10分を切り、ライバルたちに追いつくつもりだ。【木下洋子】

＝つづく